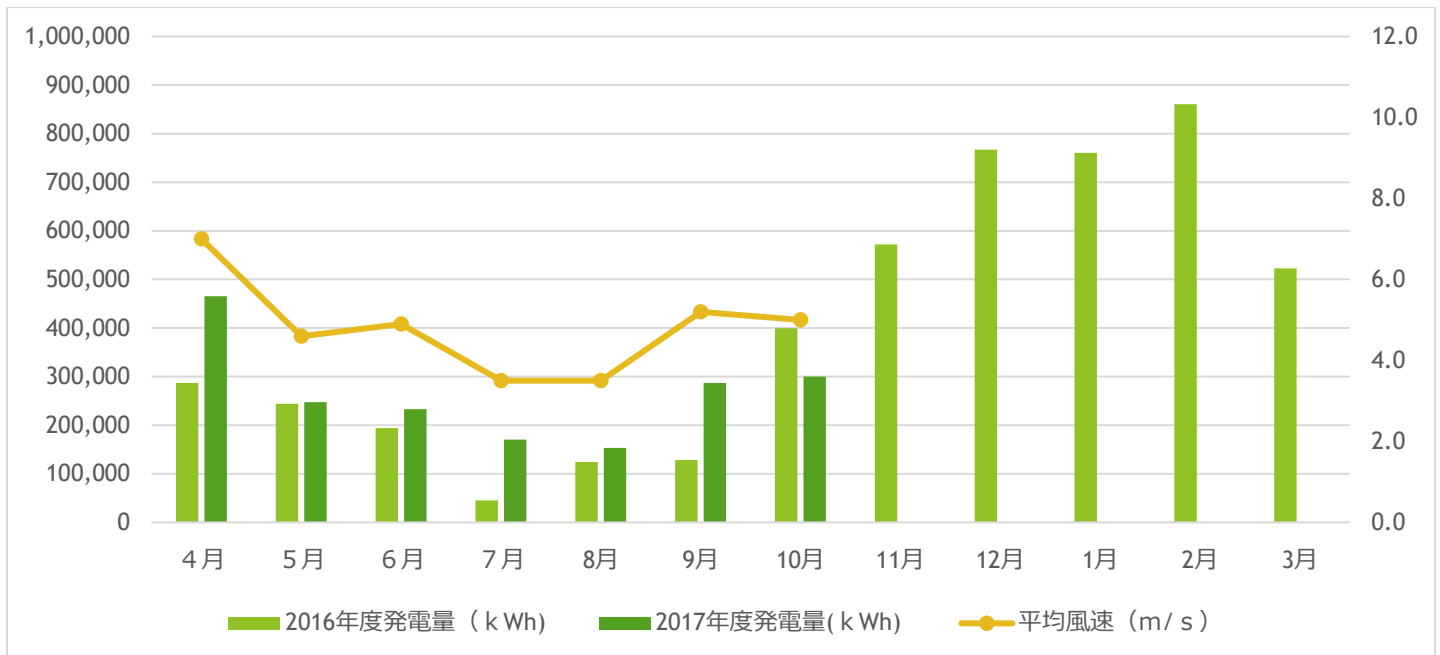


秋田県にかほ市に生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉が建設した生活クラブ風車「夢風」に関するニュースをお届けします。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-6-9 大内ビル3F 一般社団法人グリーンファンド秋田

発行責任者 半澤彰浩(代表理事) 編集責任者 西村明子

○ 発電実績



風車「夢風」運転状況について

○ 風況は昨年同月に比べ0.9m/s低い実績でした。

にかほ市芹田自治会館にて

事務局リーダーツアーで芹田自治会館に伺ったところ、自治会の方が描かれた「おいしいトマトケチャップになあれ」と題した油絵が飾られていました。とてもあたたかな気持ちになりました。



	発電量 (kWh)	平均風速 (m/s)	稼働率 (%)
4月	465,321	7.0	92.6
5月	247,330	4.6	84.5
6月	233,257	4.9	82.9
7月	170,227	3.5	84.9
8月	153,380	3.5	97.9
9月	286,896	5.2	95.0
10月	300,077	5.0	95.8
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

芹田営農組合が生活クラブの視察研修を行いました。

10/26(木)~28(土)秋田県にかほ市芹田地区の方々が生活クラブ神奈川を視察しました。

芹田営農組合より、生活クラブの視察研修を行いたいとの申し入れがあり、自治会長の荒川定敏さん、営農組合役員の藤田秋一さん、阿部敏之さん、婦人部の斉藤マサさんの4名の方が生活クラブ神奈川を訪問し研修を行いました。

受け入れ担当となった生活クラブ神奈川では、FEC 自給圏づくりの運動の現場を中心に地域の組合員との交流できるようなプログラムを準備。食(F)に関しては、横浜生産者グループ代表の大久保さんの畑、提携生産者(株)ニッコー(国産冷凍食品会社)の畑と工場。福祉(C)に関しては5月に小規模多機能型居宅介護事業がオープンしたばかりの生活リハビリクラブ葉山(通所、訪問、居宅事業)。環境に関しては、NPO法人川崎市民石けんプラントを見学して頂きました。ちょうどデポーにかほフェアを開催していたこともあり、鎌倉と高津デポーのフロアーでは、地域の組合員と共にかほの物産のアピールも行いました。

鎌倉デポーのある湘南生活クラブは今年の夏に理事研修でにかほ市を訪れており、今度は芹田の方々をお迎えする番だということで、理事会、デポー運営委員会、デポーワーカーズの皆さんでお出迎え。活動紹介あり、お買い物タイムありの楽しい時間を過ごしました。



芹田営農組合から荒川定敏さん、阿部敏之さん、斉藤マサ子さん、藤田秋一さんと夢風ブランド連絡会会長三浦さんを囲んでの記念写真。

来訪者の皆さんは農業を営んでいらっしゃることもあり、畑での生産者との農業談義は大いに盛り上がり、介護施設では、にかほ市も高齢化がすすみ課題山積ということで、自分たちに引き付けた質問が多くありました。なかでも、デポーでの組合員の消費材アピールの迫力には感動されていました。こうしたお互いの理解を深める機会を今後も大事にして、風車を絆にした地域間連携をさらにすすめていきたいと思いました。

生活クラブ神奈川 副理事長 桜井薫

事務局リーダーツアーを行いました。

11月3日(金)4日(土)、生活クラブ首都圏4単協から事務局リーダーがにかほ市で研修を行いました。

事務局リーダー研修は、2017年度で4回目になります。今回は首都圏4単協から、12人が参加しました。まず、生活クラブ風車「夢風」の風車サイトに向かい、(株)市民風力発電にご協力いただき、実際に風車を見ながら風力発電について学びました。参加者は風車の写真を撮ったり、疑問点を(株)市民風力発電の原田さん、高橋さん、黒谷さんに聞いたりしていました。風は穏やかでしたが風車は回っており、ブレードが出す音も実感できました。「思ったよりずっと小さい音だった」という声が上がっていました。また、参加者から代表して、生活クラブ千葉の柏センター事務局次長の榎健志さんがナセルに登る体験をしました。

昼には芹田自治会館をお借りして、芹田自治会長の荒川定敏さんからお話を伺いました。芹田自治会の方にお味噌汁や漬物、いちじくを使ったデザートや干し柿を準備していただき、秋田の味を楽しませていただきました。また、生活クラブ向けの大豆の圃場をご案内していただき、収穫を視察しました。

午後は、にかほ勤労青少年ホームの会議室で研修を行いました。研修では生活クラブ神奈川の半澤彰浩専務理事の「生活クラブ風車の取り組みと生活クラブでんきの契約獲得のポイント」というテーマでの講義や、各単協の電気の活動の共有、拡大活動の共有を行いました。

翌日は、同じ会場で、名古屋大学大学院教授の丸山康司先生に講義して頂きました。その後は、伊藤製麺所を見学し、昼食後、元滝伏流水を見学した後、(仮称)高森風車の建設予定地を見学しました。

参加者からは、現地での研修でにかほ市と生活クラブ風車「夢風」の理解が深まったとの感想が聞かれました。



写真左から 黒谷さん 石川さん 北浜さん 佐々木さん 牧野さん
小比田さん 岩野さん 中川さん 榎さん 島村さん 半澤さん 星野
さん 高橋さん 竹内さん 原田さん 平田さん

にかほ市で名古屋大学大学院の丸山康司教授の学習会を行いました。



事務局リーダーツアー二日目の11月4日、「再エネ事業の社会的受容性と生活クラブ風車『夢風』の効果について」と題して、名古屋大学大学院環境学研究科の丸山康司先生(左写真)に講義をお願いしました。

丸山先生は、環境保全に伴う社会的摩擦や、利害対立を解決する方法について研究をされています。その中で、再生可能エネルギーは、野生動物の保護か駆除かなどの問題とも通じる面があり、立地地域と微妙な関係性があるといいます。講義の内容をご紹介します。

再生可能エネルギーが大量に導入されるときに起きる問題を考えると、懸念事項は必ずあるとあってよい。報道されただけでも、太陽光、風力ともに日本各地で反対運動が起きている。しかし、例えば家の近くに建った風車が自分で建てたものか、あまり縁のない事業者が立てたものかで社会的受容性は全く変わる。規制(科学)が機能しやすい問題、例として化学物質などであれば、どれくらいの使用量で人体に害を与えるのか、無毒性量はどれくらいなのかがはっきりしているが、風力発電が出す音や、地熱発電所が出すにおいなどは、科学的な数値に基づいた規制を守っても不快と感じる事がある。自然エネルギーのリスクは、科学的知見や規制に限界があり、誰がどのようにその便益を受け取るのか、納得感のようところで決めざるを得ないという部分がある。賛成ではないが反対するほどでもないのか、自分から積極的に関わっていくのかでも受け取り方が変わる。何が「利益」で何が「被害」なのか、それは誰がどのように決めるのか、利害(リスク)の配分と社会的受容性はその再エネ事業モデル次第で変わる事となる。

立地地域にとって望ましい事業とするには、何が問題となり、誰が利害関係者になるのかや、どうすれば問題が解決するかを見極め、手続きの透明性をもってリスクと利益の配分構造を探っていく必要がある。デンマークのコペンハーゲンに建つ洋上風力発電の設置では、住民参加型で議論がされてきた。コペンハーゲンを取り囲む中世の城壁の同心円状に風力発電を配置することにより、温暖化からコペンハーゲンを守るという文化的意味付けなどもされ、このようにプロセスをきちんとすることで、問題の受け止め方が変わってくる。立地地

域には利息や投資配当、税金などの直接的経済効果や、間接的な効果が出る。再生可能エネルギーの所有状況を見ると、風力発電では77%が他地域の所有者のものとなっているが、直接的経済効果は、事業モデルによって大きく差が開いており、誰がどのようにかわるかによって変わる。北海道の寿都町では、町営の風車で出た利益を町民に広く還元している。

自然エネルギーの立地地域の自治体が、再エネ基金のように事業による利益を地域に再投資する仕組みなど、地域にとって望ましい事業の在り方を提示することも重要だ。はっきりと示すことで事業者は、その条件をクリアしようと努力できるからだ。

生活クラブ風車「夢風」の数字で見える効果としては、固定資産税などの直接経済効果と、夢風ブランド品の取り組みやトマト、大豆など生活クラブの取り組みによる波及効果があり、この波及効果が大きくなっていることが特徴だ。また数字では見えない効果として、コミュニケーションや、期待や希望、にかほ市長が「ただの風車ではない」という認識と信頼を生んでいる。今後の可能性については、電気の消費材化や、生産地との双方向的な関係作りのきっかけ、「対等互惠」による付加価値の創造などがあげられる。再生可能エネルギーを将来につなげるためには、「良い事業」が必要。「良い事業」とは、より多様なひとが（結果としてはより多くの人が）喜ぶ事業の事だ。それは、「対等互惠」と機能の組み合わせで、何が人々の「利益」か、を考えていく事が大切だ。

にかほ市情報

にかほ市役所観光課の方にかほ市にまつわる情報を隔月でいただいています。

生活クラブ生協の皆さま、秋田県にかほ市観光課の齋藤将平と申します。本市では10月4日にシンボルともいえる鳥海山で初冠雪が観測され、今ではすっかり雪化粧をしています。

さて、第4回目となる今回は本市の冬の味であり、これから旬を迎えるハタハタのイベントについてご紹介いたします。

11月上旬から、本市でも秋田県の代表的な魚でもある「ハタハタ」の水揚げが始まりました。発酵食品として有名な「ハタハタ寿し」をはじめ、「ハタハタうどん」「ぶりこんふい」「ハタハタのオイル漬け」といったハタハタを使った特産品が本市にはたくさんあるのはご存じでしょうか？そのバラエティ豊かなハタハタを味わえるイベントが12月2日～3日に東京お台場で開催されます！その名も「秋田・鳥取 食の祭典 ハタハタフェスティバル 2017」。秋田県と鳥取県からたくさんのハタハタ料理や加工品が集結する大イベントとなっており、本市からも、道の駅象潟「ねむの丘」・三浦米太郎商店・伊藤製麺所の3業者が出店いたします。会場では各事業者の自慢の逸品を販売すると共に、にかほ市制10周年を記念して誕生したマスコットキャラクター「にかほっぺん」も登場しますので皆さまぜひ会いにいらしてください。



漬け」といったハタハタを使った特産品が本市にはたくさんあるのはご存じでしょうか？そのバラエティ豊かなハタハタを味わえるイベントが12月2日～3日に東京お台場で開催されます！その名も「秋田・鳥取 食の祭典 ハタハタフェスティバル 2017」。秋田県と鳥取県からたくさんのハタハタ料理や加工品が集結する大イベントとなっており、本市からも、道の駅象潟「ねむの丘」・三浦米太郎商店・伊藤製麺所の3業者が出店いたします。会場では各事業者の自慢の逸品を販売すると共に、にかほ市制10周年を記念して誕生したマスコットキャラクター「にかほっぺん」も登場しますので皆さまぜひ会いにいらしてください。

にかほの魅力を堪能できるこの機会をお見逃しなく！

